

Newsletter

TEL 03-5210-2181, FAX 03-5210-2184 <https://www.kokudo.or.jp>

Japan Geographic Data Center
公益財団法人
国土地理協会

2023年の地名変更情報 あんな地名 こんな地名

2023年も、各地で興味深い地名の新設がありました。
この1年間の新設地名について振り返ります。

茨城県常総市
じょうそう
「むすびまち」

圏央道常総インターチェンジ周辺に誕生した地名です。この地域一帯は、産業団地「アグリサイエンスパーク常総」として整備されています。インターチェンジが近いという広域交通性を生かし、生産から加工・流通・販売の各事業が連動し、「農業の6次産業化※」につなげる拠点となっています。野菜の大規模栽培施設や物流施設、道の駅や集客施設、観光農園が整備される予定です。このうち加工・流通・販売を担う地区（都市エリア）が、区画整理により「むすびまち」となりました。

※ 生産物の価値を上げるため、農林漁業者が、農畜産物・水産物の生産だけでなく、食品加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）にも取り組み、それによって農林水産業を活性化させ、農山漁村の経済を豊かにしていくこうとするもの。

埼玉県深谷市
ふかや
はなその
「花園」

この地名は「花園インターチェンジ拠点整備プロジェクト」の区画整理により誕生しました。このプロジェクトは、関越自動車道花園インターチェンジの近接地に新たな観光拠点を設置し、市外・県外から人を呼び込み、農業と観光の振興に寄与することを目的としています。「花園」には「ふかや花園プレミアム・アウトレット」や「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」「深谷テラスパーク」があり、多くの観光客が訪れています。

岐阜県可児市
かに
「あけち」

明智光秀のふるさとに「あけち」が誕生しました。東海環状自動車道可児御嵩インターチェンジに近接する工業団地開発事業地内の地名です。ひらがなの地名としたのは、岐阜県恵那市の「明智」（2004年の合併まで「明智町」として存在）との混同を避けるためです。可児市には光秀のふるさと「明智荘」があり、新しい地名には可児市にゆかりのある「あけち」という音を使いたいという地元の人々の意見を反映しました。



あかざき
愛知県岡崎市
はっとうちょう
「八丁町」

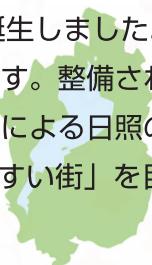
岡崎市の「八帖町」は八丁味噌の発祥地として知られていますが、その中の老舗八丁味噌メーカー2社の敷地内の町名表記を「八丁町」に変更しました。この2社は江戸時代初期から伝統的製法による八丁味噌作りを続けています。ところが、平成27年より運用されている地理的表示（G I）保護制度※の登録では「八丁味噌」は2社の八丁味噌が除かれたままになっており、関係者は現在も見直しを求めています。岡崎市では、同制度は生産地の場所を特定するものであるため、2社の敷地を八丁味噌の起源である「八丁」町に変更回復することにより、同制度の見直し支援につなげるとしています。

※ その地域ならではの自然的、人文的、社会的な要因の中で育まれてきた品質、社会的評価等の特性を有する产品的名称を、地域の知的財産として保護する制度。



くさつ
滋賀県草津市
みのりくつ
「南草津ブリムタウン」

J R 東海道本線南草津駅西側エリアの大規模な駅前再開発により誕生しました。合計6つの公園のほか、ショッピングモール、医療施設向けのエリアもあります。整備された街並みを形成するためのさまざまな制限が設けられていて、建物の高さ制限による日照の確保、敷地面積10%以上の緑化計画による緑豊かな環境など、「将来にわたって住みやすい街」を目指した街づくりが行われています。



じょうよう
京都府城陽市
れいりょう
「令涼つむぎ」

城陽市の東部丘陵地は「令涼」という愛称で開発が行われています。その中の長池地区が「令涼つむぎ」という名称になりました。城陽市の名産である金銀糸と絡めて、人やものをつなぐ意味を持つ、「いとへん」をもつ漢字の訓読みを愛称とし、コンセプトは「京都と奈良の中間にある、自然環境に恵まれた麗しく涼やかな丘陵に位置し、新名神高速道路により絆を紡いでいく、令和のあたらしいまち」とのことです。



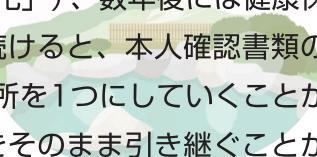
ふくやま
広島県福山市
ほくしょうちゅう
「北匠町」

福山市の「駅家町」と「加茂町」にまたがる福山北産業団地に付けられた名称です。「ものづくりのまち福山」において、産業拠点をイメージできる「北の匠たちの町」とのイメージから「北匠町」としたそうです。市が誇る高い技術力が結集し、産業をけん引していくエリアとなることが期待されています。



べっぷ
大分県別府市
ひがしそうふ
「東莊園1～9丁目・
そとうえん1～9
荘園北町・緑丘町」

今まで通称（行政区・町内会名等）として使用されていた地名が、住居表示により正式な地名になりました。別府市では、住民基本台帳に記載されている正式な大字住所の他に、通称住所が多く使われています。令和7年度に住民登録などの地方行政システムの情報が全国の自治体で統一化され（「地方公共団体の基幹業務システムの統一、標準化」）、数年後には健康保険証や各種証明書の住所が大字住所表記になる予定です。通称地名を使い続けると、本人確認書類の住所不一致、郵便物未達などが予想されるため、今後住居表示を実施して住所を1つにしていくことが予定されています。表示方法は今まで慣れ親しんだ通称住所の町名、区域をそのまま引き継ぐことが前提だそうです。



- (1) 試験日 : 2024(令和6)年6月16日(日)予定

(2) 試験時間／問題数
地図地理検定(基礎) : 13:30～14:20・全問択一式、100点満点
地図地理検定(専門) : 15:00～16:00・択一式15問、記述式9問、100点満点

(3) 実施都市 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡

(4) 受検資格 どなたでも受検できます。年齢等、一切の制限はございません。

前回の問題は
ここでチェック!

地図地理検定

検索

受檢料

基本受検のほかにリピーター割引、学生割引、シニア割引等があります。5名以上なら団体受検もできます。

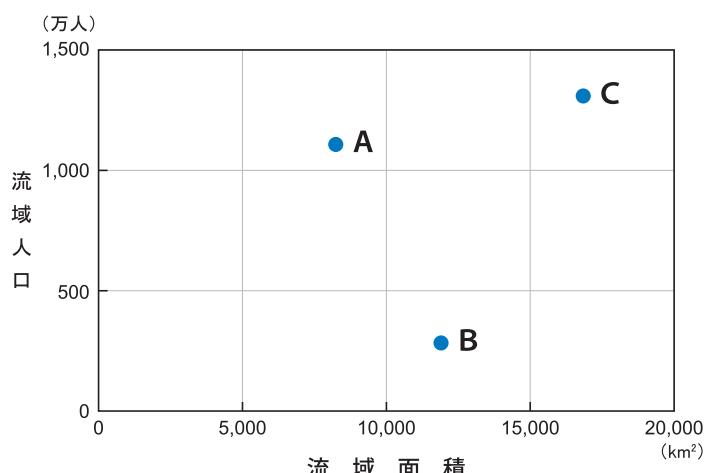
	地図地理検定（基礎）	地図地理検定（専門）	基礎・専門の併願
基本受検料	3,000円	4,000円	5,000円
各種割引	2,000円	3,000円	4,000円

詳しくは地図地理検定ホームページ (<https://www.jmc.or.jp/keihatsu-kyouiku/chizuken/>) をご覧ください。

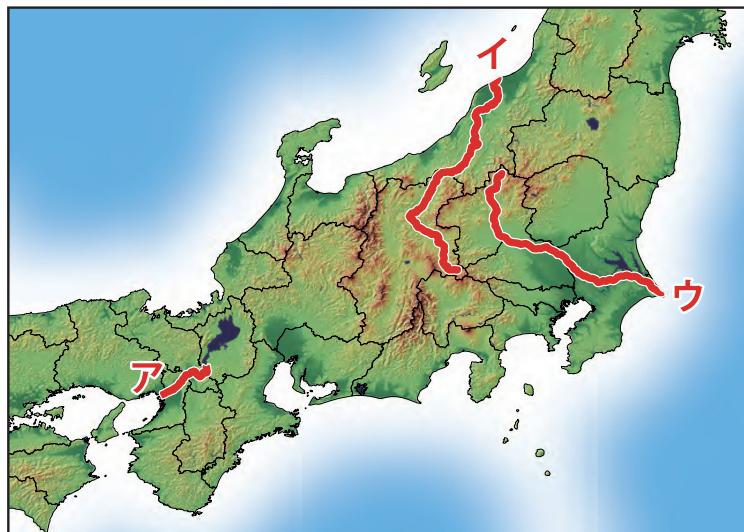
地図地理クイズ！

(第39回地図地理検定より出題)

問 日本の河川は勾配が急で流路延長が短く、山地に降った雨が一気に流れ込んで水量が増し、災害につながりやすいという特徴があります。次の図1中のA～Cは、図2に示した河川ア～ウの流域面積と流域人口を示したものです。A～Cとア～ウとの正しい組み合わせを、後の①～⑥のうちから1つ選びなさい。



『2018河川ハンドブック』により作成



1

2

	①	②	③	④	⑤	⑥
A	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
B	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
C	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

【解説】 まず各河川の人口密度、平均年齢、少子化率、利根川流域面積は日本最大、利根川流域面積は日本最大で特徴的である。流域内に多くの支流があるが、利根川本流の流域面積は日本最大である。また、利根川流域は日本の主要な農業地域である。

日本列島 離島巡り

今回は香川県高松市の北約4km、瀬戸内海に浮かぶ女木島、別名「鬼ヶ島」をご紹介します。

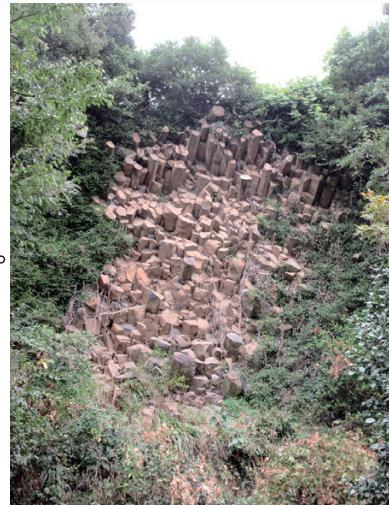


女木島の北には男木島があり、令和2年の人口は女木島125人、男木島132人となっています。女木島の観光地といえば「鬼ヶ島大洞窟」でしょう。島の中央、鷲ヶ峰山頂にある大規模な洞窟で、古来より鬼が住んでいたと伝えられていることから、女木島は別名「鬼ヶ島」と呼ばれています。この洞窟は天然の鍾乳洞ではなく人工的に造られており、広さは約4,000平米、奥行き400mとかなり広く、まだ謎の部分もあるそうです。



鬼ヶ島大洞窟内

女木島の柱状節理は鬼ヶ島大洞窟の裏手にあり、今から500万年前の火山の噴火で流れ出た溶岩が、急速に冷えて五角柱状や六角柱状に固まったものです。溶岩やマグマは冷えて固まるとき、少しだけ体積が小さくなつて縮みます。冷えていく溶岩やマグマ全体が縮むときに五角形や六角形の柱状の割れ目ができ、これが隆起して地表に出てきたものが柱状節理です。昭和51年に高松市の天然記念物に指定されています。



柱状節理(大洞窟裏)

女木港の北側に1体のモアイ像が集落を見守るように立っています。モアイ像とは、南米チリ領のイースター島に点在し、先住民が先祖守護神として作ったなど諸説ありますが、いまだ謎に包まれている石像です。女木島のモアイ像は1996年11月、重機会社から高松市に寄贈されたもので、高さ3.9m、重さ10.8トン、イースター島にある本物と同じ凝灰岩で作られています。1960年のチリ沖大地震の津波によってイースター島最大の遺跡が破壊された際、クレーンがあれば倒れたモアイ像を元に戻せるのにという現地の人の声を聞いたクレーンメーカーが修復プロジェクトを立ち上げ、吊り上げテスト用に作ったレプリカがこの像です。



モアイ

女木島の東浦では、オーテと呼ばれるこの島独特の石垣が見られます。冬になると「オトシ」と呼ばれる強い季節風が吹くことがある島の東海岸では、風向きが悪いと波のしぶきが玉のようになって海から吹き付けます。家々の屋根の高さまですっぽり覆い尽くすオーテは、東浦の集落をしっかりと守ってくれるもので、江戸時代からあったと言われています。波静かな瀬戸内の島で防風防波のための石垣を築くのは珍しく、貴重なものとされています。



オーテ(石垣)

ニュースレター等に関するお問い合わせは

公益財団法人 国土地理協会 〒102-0094

東京都千代田区紀尾井町3番1号

TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184

URL <https://www.kokudo.or.jp>